

牛久：学校周辺に見る自然

第28号 牛久シャトー

2010年7月14日発行

＜オオカナダモの花が咲きました＞

オオカナダモ (トチカガミ科) *Egeria densa* (Planch)Casp.

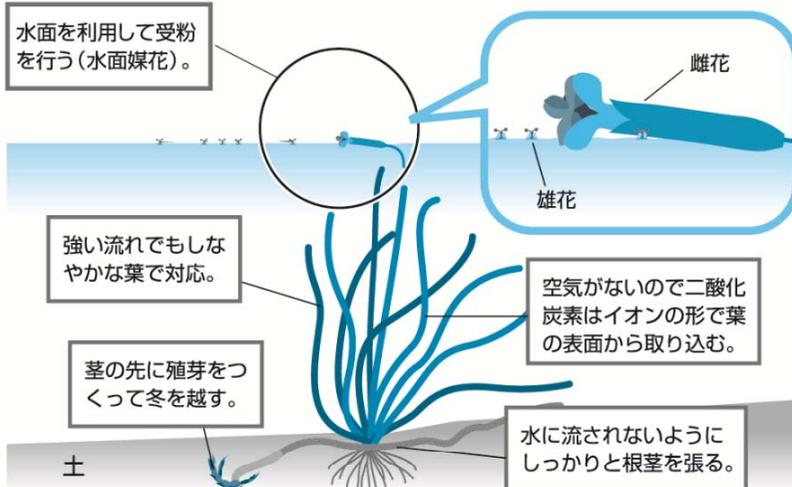


6月下旬、牛久シャトーを訪れると、理科の実験などでおなじみのオオカナダモの花が咲いていました。5年生は水槽に入れてメダカの卵を産ませたりし、中学では植物細胞の観察材料として使うこともありますね。体全体が水中に沈むタイプの水草で、「カナダ藻」といいながら実はアルゼンチンなど南米原産なのだそうです。大正時代に理科の実験用に導入されたのが大繁殖したといわれており、1970年頃から日本各地で繁茂し、害草として問題になっているところもあるようです。

雌の株と雄の株があって、日本に帰化しているのは雄株だけといわれていますので、日本では種子でなく、体が途中で切れながら増えていると考えられています。だから、あちこちで繁殖しているオオカナダモは、もとは同じクローンである可能性もありますね。

水質汚濁の進んだところでも繁殖しているようで、また低温にもかなり強いといわれ、そのまま、あるいは茎の先端に「^{しよくが}殖芽」という小さな葉の密集したような^{えつとうが}越冬芽を作って越冬します。これとよく似た日本在来のクロモは水質汚濁にあまり耐えられず、また冬には枯れてしまうので翌春の生長が遅れ、オオカナダモに負けてしまうようです。

●水環境への適応（コウガイモの例）



クロモの雄花は離れて水面に浮き、雌花はがく筒を細長く伸ばして水面に達して花を開くそうで、水の流れによって花粉が雌しべに送り届けられる水媒花です。オオカナダモも水媒花といわれていますが、雌株がないので日本では残念ながらその様子を観察することはできません。花期は6～10月といわれ、花柄を水面までのばして、がく片3枚、花弁3枚、雄しべ9本をもつ白い雄花を咲かせます。

【理科支援員：宮内】

↑『図解雑学 植物の科学』八田編著・ナツメ社より(宮内も分担執筆していますが、残念ながら既に廃刊となっています。)